



「カトリック文庫通信」

発刊にあたって

図書館長 山本 和義

わが国近代におけるキリスト教文化の歴史を精緻に究めるに足る資料群を構築すべく、図書館の長期にわたる事業として構想された「南山大学図書館『カトリック文庫』」は、なお草創期にあるといつてよいが、5年目を確かな足どりで歩みつつある。

この5年、われわれは図書館予算中のカトリック資料費の枠内に活動をとどめることなく、ひろく学内外の個人と機関にこの事業の趣意を告げて協力を求めてきた。幸いにわれわれの要請は時宜に適ってもいたのであろう、積極的に受けとめられ、その成果は、本号2ページ以下に載せる眞野和夫氏の一文に語られているように、予期したところを超えて豊かであり、10月の時点で寄贈された資料は図書のみでも5000点に及び、その多くが「文庫」に収めるに足る研究上の価値を有している（その正確な数量は整理を経て後に報告させていただく）。われわれの感謝はきわめて深いものがある。

他方、それはわが図書館に課されたものが如何に重いかを語ってもいる。それら大量の資料は死蔵してはならず、妨げなく研究に供しうよう適切に管理されなければならない。いま図書館は自らの力量を培いつつ、そのための努力を真摯に重ねているが、その態勢を成すにはなお暫くの猶予を乞わねばならない。しかし現時点においても、図書館は極力利用者の便宜を図っている。

本年4月、図書館では、この「文庫」をすぐれたものにするための知恵を授かるうとして、図書館長がその運営に責任を負う「カトリック文庫」協議会をスタートさせた。すでにわれわれは有益な助言の数々を得ている。さらに7月には、この「文庫」を主体的に担っている事務部の「カトリック文庫」プロジェクトを組織的に強化した。こうした動きの中で、南山大学図書館が「カトリック文庫通信」の発刊を決定したのは、この事業の意図するところとその状況をより深く理解していただくために、資料提供者（機関）また利用者と南山大学図書館との間に確かな情報の流れをつくろうと企図してのことである。われわれのこの意図を汲んで、さらに強くご支援くださるよう切に願ひ上げる。

「カトリック文庫」あれこれ

眞野 和夫

南山大学図書館における「カトリック文庫」について、その経緯を記憶を辿りながら、またその将来についてもあれこれ自分の思いの一端を記してみたい。ただし後段の将来への期待はあくまで私的な発想であり、これが大学もしくは図書館の意思ではないことを予め明確にしておきたい。

本学図書館における「カトリック文庫」構想は、1989（平成元）年に図書館で長期事業の一環として提唱されたことに始まり、図書館では構想を実現するため図書費予算の中にカトリック資料費を計上し、明治期刊行の聖書・聖歌集等を古書店から入手することによる資料の構築が図られた。このことは、今日に至るまで各年度ごとの予算措置のもとで継続的に実行され、これまでに150余点の資料を購入してきた。他方、当時図書館の学術情報課長に着任した私は、資料収集の一途としてカトリック関係諸機関へ協力を要請することを試み、その第一歩として本学の設立母体である神言修道会の多治見修道院（岐阜県多治見市）で倉庫に眠る資料の譲り受けを実行することからこの仕事を始めた。併行して神言修道会日本管区長である森山神父に指導と協力を願い出ることとした。これには神言修道会が来日（1907（明治40））当初から宣教・司牧を担当している現在のカトリック新潟教区内の教会から旧蔵書を譲り受けことが自分の念頭にあったからである。（このことは、後に秋田、鹿角＝毛馬内の両教会から前世紀刊行の神学、哲学関係の貴重な書を含む多数の資料を受贈することにより実現された。）大学図書館での企画に大きく賛同された森山管区長には、私どもの意に応じて多忙の中で自ら筆を走らせ、或いは関係者との会議の寸暇に声を掛けて頂くなど、労を惜しまず神言修道会の各機関のみならず知己の各司教方、教会関係者、修道会および当時新築移転の機にあったカトリック中央協議会に対してもきめ細かく協力を呼び掛けていただき貴重な情報を提供していただいた。その結果、資料収集の幅は沖縄から東北地方までに及び、担当者であった私のメモには、これまで実に90名余の方と面会したことが記されている。

余談であるが、資料収集の作業を実施するうちにさまざまなことに遭遇した。中でも、市内の某教会の構内の段差で公用車が脱輪し、同行のH嬢をはじめ教会の神父さん方に真夏の陽盛りの下で大奮闘していただいた（車の運転が出来ない私は為す術もなく、傍観しているにすぎなかったが）こと、資料搬出のために踏み込んだ多治見修道院の廃屋で突如頭上から蛇に出迎えられ、G嬢とともに肝を冷やして飛び上がったこと、K氏と雪の降りしきる新潟の駅に降り立ち身震いをしてタクシーを待ったこと、女子修道院で男子用の手洗いを探すため構内を歩いてシスターに問い詰められた（律儀な老シスターには不審者が院内を徘徊している見えたらしい＝森閑とした院内で周囲に尋ねる人も無く窮していたのに、彼女はどこから監視しておられたのか、足擦りの気配もなく現れて・・・）こと、某修道院から寄贈された古書を介してダニが繁殖し館内の燻煙除虫を実施したこと、（ダニの発生源の真偽は定かではないが）等々のことが思い出される。

他方この仕事を通して多くの司教方、修道会・宣教会の司祭、修道者方の話を伺う機会に恵まれ、普段は著書とかテレビを通してしか知らなかった高名な学者神父と直接会うことにより改めてその人となりに惹かれたこともあった。司教館、修道院等での選書は夏は流れ出る汗に、冬にはかじかむ手を擦りながら寒さと戦い、塵に塗れての作業の繰り返しではあったが、かねてより入手したいと願っていた資料を見付け出し受贈し

たとき心おどるほどに感激した思いは、今も脳裏に甦るものがある。また、受贈した資料を荷造りするための人手が足りず現地に在住する旧友に助けを求め、突然の願いに快く手を貸してくれた友の厚意に感謝したこともあった。

ともあれ、資料の厚みも極めて短期間に質・量ともに増大し今日ここに見ることが出来るこれらの大半が市販されていないし、今後も再版されることが無いであろう、第二バチカン公会議時期までの貴重な約3,000点を受贈するに至った背景には多くの方々の善意と、本学図書館のこの事業に対する期待に支えられたことがあり、とりわけ森山管区長の尽力に依るところが多であったことを忘れてはならないと思う。

さて、本学図書館では1992（平成3）年秋にこの時点までの成果をもとに「キリスト教関係資料展」を開催した。この企画を実施するに当たり、私には同僚達とこの機会に資料の選書あるいはそれらの解題を作成する作業を通して関係分野に関する勉強をし、たとえ僅かなものでも自分の持てる知識を分け合いたいという気持ちもあった。幸いにも展示会は学内外の多数の見学者から好評を得ることとなり、また、この頃から学内外の研究者等による資料の照会、利用も見られるようになった。これらのことは図書館内においても事業を展開する上で大きな弾みとなった。

ただ、短期間のうちにたちまち増大する資料を目前にその管理と利用に供する態勢を整える必要に迫られ、1992（平成3）年4月には図書館事務部内に8名の職員からなる「『カトリック文庫』プロジェクト」を発足させ、収書活動、整理・分類基準の策定に取り組むこととなった。しかしながら、第一年目は個々のメンバーが限られた時間の中で、何を、どのように進めるのか手探りの状態でありいっこうに具体的な活動に繋げることが出来なかったことも事実である。更に1993（平成5）年度からは学内での呼称を「南山大学図書館『カトリック文庫』」とすることが正式に認められ、仮設の資料室を設け（そのために現在の図書館における物理的状況の下では職員休憩室の一部を割愛せざるを得ないこととなったが。）、学内及び学外者の利用に応えられる態勢を整えた。これを機に専門的な見地からの指導・助言を得る機関として図書館長を長として、教育職員、事務職員を構成員として「『カトリック文庫』協議会」を組織発足させた。

さて、本学図書館は、これまで幾多の方々によって育て支えられて来たこの事業をさらに継続的に展開させ多くの利用に応える責務を担っており、その実現のためには大学全体としての取り組みが強化されなければならないであろう。個人的な立場で考える当面の対応は、1999（平成11）年度までを第一期の資料収集の期間とし積極的な集書活動を展開し、第1版の目録の完成を見ることが出来れば本学創立50周年の節目の年に図書館の記念事業の一環としても相応しいものになるであろう。図らずもこの年は、図書館で「カトリック文庫」が産声をあげて10年目となる年でもある。

また、今後関係分野の研究図書、学生用キリスト教コーナー図書とカトリック文庫の三本の柱を充実させることにより、カトリック大学の図書館としてこの地域に類を見ない特色を持つことが出来るであろう。加えて神言神学院（大学に隣接し、神言修道会が直接経営するカトリック司祭・修道者の教育、養成をする機関である教皇庁立神学院）図書館が所蔵する約50,000点に及ぶ専門書をも含めて位置づけることが出来れば、近代日本におけるキリスト教関係資料群の厚みは質、量ともに我が国でも有数のものとなり得るはずである。さらに将来的には、国内の同種の資料を保有する機関（大学等教育機関、博物館、修道会、教会その他）との連携が組織的に行なえるようになれば、内外の研究者にも有益な事業となるであろう。

「カトリック文庫」について私の思いは、あれこれ尽きないものがあるが、緒についたばかりのこの事業が初期の構想にあった『近代の我が国におけるキリスト教文化を実証するに価する資料の保存と利用』が、ここ名古屋の地にある南山大学で具現されることを願っている。いつの日にか資料が整然と並べられた「カトリック文庫」資料室で過去を振り返っている自分の姿を思いつつ……

1993.8.15（聖フランシスコ・ザビエル渡来444年目の日に）

編集者注．

現・学務部主幹の眞野和夫氏は、平成2年1月から5年6月まで図書館事務部学術情報課第二課長の任に在り、特にその間、「カトリック文庫」プロジェクトの委員長として「カトリック文庫」の礎を築くことに尽力された。

「カトリック文庫」協議会委員

委員長：山本 和義 教 授（図書館長）

委 員：青山 玄 教 授

RIEMER, Robert 教 授

杉本 良男 助教授

DUNPHY, Walter 講 師

眞野 和夫（委員長推薦）

近藤 征宏（カトリック文庫プロジェクト外委員）

紅露 剛 （カトリック文庫プロジェクト外委員）

「カトリック文庫」プロジェクト委員

委員長：近藤 征宏（図書館事務部次長）

委 員：内藤 英明（整理係）

山田 豊明（図書受入係）

三谷 靖司（システム係）

紅露 剛（参考係）

平松 富美（図書受入係）

喜多島晶子（逐次刊行物係）

1993.10.1.現在

編集後記

関係各方面から寄贈頂いた資料は10月1日現在で5000点を超えました。皆さまの暖かいご支援とご理解に感謝致します。なお、本誌のタイトルは『普遍』を表すギリシャ語から取りました。皆さまに向けてこれからもこの『通信』を続けていきます。宜しくお願い致します。

(タイトルデザイン: 平松富美)

南山大学カトリック文庫通信カトリコス

創刊号 1993.10.1.発行

南山大学図書館「カトリック文庫」フロア外

編集委員: 紅露、喜多島

〒460名古屋市昭和区山里町18

Tel.052(832)3163 Fax(G3)052(833)6986